

# あ と が き

この小冊子をつくることが決ってから、ちょうど6週間目となりますが、今、第1回目の校正を世話人みんなで、ワイワイガヤガヤ云いながらやっているところです。

1月28日、我々の救援ボランティア活動が始まりました。全くといって良い程、準備もできず、未体験の活動に取り組むだけで精一杯で、ふりかえりを行う余裕もないまゝに日が経ちました。

活動が一区切りついた時に、これまでの活動をふりかえり、整理してみたいと思いながら、その機会がありませんでしたが、今回の小冊子をつくる作業はまさにこれを行うことでありました。

ふりかえりは個人レベルで、又、グループで、様々な形で行われましたが、活動の渦中にあった時には気付かなかったことも、いろいろと出てきました。

短い期間ではあったものの、その結果を中間報告としてまとめたのがこの冊子です。

貴重な体験や、様々な気付きがありましたが、これらをその人だけのものに止めず、みなさんにご報告することによって、より多くの方々にシェアできたら良いなと思います。そして、これが今後も息長く続く救援活動に少しでも役立ち、又、万が一にも再び大災害が起こった時の備えをつくる契機となることを願っています。

編集のための時間的制約やその他の事情で、心ならずも、約30名の方々にしぼって寄稿していただきましたが、他にもいろいろなお体験や、気付きもあったことと思います。次の機会まで、温め、ふくらませていただくようお願いします。

今回、我々に活動の場を与えていただいた大阪市民生局を始め、関係諸団体に心から感謝しますと共に、今後ともご指導をお願いします。又、この冊子の趣旨を理解し、印刷に特別のご配慮と便宜を図っていただいた宏文印刷株式会社にもお礼を申し上げます。

終わりに、被災されたみなさん方が自らの力を信頼し、癒し合い、希望を持って一日も早く、復興されることを心から願っております。

平成7年6月24日

ボランティア世話人会

世話人 浅野 宏之、飯田 眞哉、遠藤 瑞江、吉備 素子

田中 美保、津田 初子、中西 容子、昇 正子

福岡 笙子、松岡 恵子、森口 京子、吉元紀美子

事務局 影山 峰子